SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

まえがき

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学人文社会科学部社会学科 文化人類学コース 公開日: 2018-04-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 達也, 大野, 旭, 長沼, さやか メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00024980

まえがき

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コースでは、3 年次に、「フィールドワーク実習」という授業を開講しています。静岡県内でその年の調査地を選び、4 泊 5 日現地に滞在し、地域について学び、報告書を作成するという授業です。

フィールドワーク実習のテーマは、「地域で学ぶ、地域を学ぶ、地域を通して学ぶ、そして地域に学びの成果をお返しする」ということです。文化人類学の方法論を地域で学び、また、地域の歴史や文化そのものを深く学ぶ。さらには、日本全体や、あるいは世界で現在問題になっているような事象を、地域を通して学び、そしてこれらの学びの成果を多少なりとも地域にお返しする、ということです。人間の文化について理解を深める文化人類学にとっても、地域の中で学ぶフィールドワークを教育方針としている静岡大学人文社会科学部としても、この実習は、非常に重要な意味を持っています。

今年は、縁あって、静岡市由比地区入山および由比川流域にお住いの方々にお世話になりました。一昨年度の調査を基盤にしながら、前回十分に調査できなかった入山や由比川流域に着目することで、山や川という恵みともなれば脅威ともなりうる存在に囲まれながら生活する人々が、祭や相撲等の歴史をもった行事と現代的な生活スタイルや問題をどのように同居させて暮らしているのか、という問いをもって教員・学生ともに参りました。結果、当初の印象以上に豊かな情景や人びとの営みが入山および由比川流域には広がっており、また、それを支える地域の努力を目にすることを通じて、非常にたくさんのことを学ぶことができた実習であったと感じています。

今年度は、民宿・玉鉾を調査の拠点として、教員 3 名と学生 10 名（市山修平・菅翔太・介川春佳・鈴木千遥・園田将也・高橋啓汰・鷹股彩乃・中村佳会・望月淳平・和出幹人）の計 13 名が、6 月 4 日から 8 日までの 4 泊 5 日、入山および由比川流域で現地調査させていただきました。

最初に今回の調査の架け橋を提供して下さった桑原信夫さん、桑原さんの音頭で調査の初日にお集まりいただきました由比地区の自治会長の皆様をはじめ、翌日からもさまざまな方たちが玉鉾を覗いては、不便はないか、訊きたいことはないか、と気を配って下さいました。玉鉾のみなさんには、地域の食材も使ったおいしい食事を提供していただき、私たちの我儘にも応えていただきました。地域のみなさんからのこのようなサポートのおかげで、学生たちはのびのびと調査させていただきました。他にも、個々の学生にご協力いただいた地域のみなさんには、大変お世話になりました。紙幅の都合のため、お名前を挙げることができなかった皆様をふくめて、ここに記して厚く御礼を申し上げます。

なお、本報告書の刊行にあたっては、静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費の助成を受けました。本報告書の内容は、下記の URL からもご覧いただけます。

http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/bunjin/

平成 29 年 12 月

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース

山本　達也

大野　旭（楊　海英）

長沼さやか